

文字と発音 Pronunciación

1. アルファベット

Q-1. スペイン語の辞書を引いていたところ、不思議な文字と出会いました。argüir という単語で、u の上にドットが2 つ付いています。ドイツ語とかに出てきそうな文字ですが、スペイン語では見た事がないので、これは一体何なのか、今も使われているのかといったことを教えて下さい。

A-1. u の上にドットが2 つ付いているのは、スペイン語で diéresis といい、güi, güe のように書き [gwi, gwe] と発音されます。一方 gui, gue は [gi, ge] と発音されます。頻度は少ないですが、argüir だけでなく、lingüística, bilingüe などでも使われます。

Q-2. U の上に2 つ点がついているあのアルファベットか記号かわからないものの名前は何でしょうか？

A-2. スペイン語では crema、または diéresis、フランス語で tréma、英語だと diaeresis といいます。分音記号と訳します。gue の「u」と「e」、gui の「u」と「i」を分けて発音するように指示するものだからです。ドイツ語のウムラウト記号とは形は同じですが別物です。

Q-3. 何故、h は読まないのですか？ 読まないなら書く必要もない気がするのですが...(英語の単語でもそういったものがありますが...)

A-3. h の語源はラテン語やギリシャ語で h であった場合 (hoy) と、f であった場合 (hijo) があります。スペイン語は音の変化に合わせて綴りを変えてきた言語ですが、h や v は語源に基づく元の形を保っています。v が b と同じ発音なのに b と書かないのも、そのためです。

さらにいえば、綴り字の規則 (正字法) と発音の間には、どんな言語でもズレがあるものです。日本語でいえば「生命」の仮名書きは「せいめい」ですが、実際の発音は「せえめえ」であるようなものです。

Q-4. 人の名前を書くとき、「じ」を ji としてもいいのですか？ ji だと「ひ」と読まれてしまうのでは...？

A-4. 普段書き慣れているローマ字表記にしてかまいません。教養のあるスペイン人なら (というかどこの国でも教養のある人は) 言語によって綴り字の規則が違ふことは承知しています。何も言われなければ、普通のスペイン人は日本語の綴り字の規則を知りませんから地図上の「富士山」Monte Fuji は「モンテフヒ」と読んでしまいます。しかし、生身の「裕次郎 Yujiro」さん本人から自分の名前の ji は「じ」と読みますと言われれば、ああそうですかと納得してそう呼んでくれるはずですよ。

2. 母音

3. 二重母音と三重母音

4. 母音の分立

5. 子音

Q-5. millones, llego, allí の発音は[j]と[y]のどちらですか。

A-5. ll と y の発音は「ユ」(英語の you) ~ 「ジュ」(英語の pleasure)のどちらでも発音されます。地方差や個人差があるようです。また、一部の地域(スペイン北部や南米のアンデス地域)では ll が「リュ」のように発音されます。

Q-6. 語頭だけでなく、単語の途中の r が 1 つだけ出ているところでも巻き舌を使っているように聞こえるのですが...?

A-6. たとえば, tarde のような語で、音節が終わる位置の r は巻き舌になることがあります。また, cantar のように語末でも巻き舌になることがあります。

Q-7. スペイン、カタルーニャ州出身のサッカー選手で Xavier (ハビエル) という名前の方がいます。日本では Xavi と書いて「シャビ」と発音は表記されていますが、現地バルセロナ等ではどんな発音になるのでしょうか?

A-7. カタルーニャ語ではシャビエルと発音します。「シャビエルと呼んでほしい」という意思があるカタルーニャ人に対して、カスティールヤでは「シャビエル」と発音しますし、一方で、ハビエルと自分で名乗る人はハビエルと呼びます。一方、Xavier と表記されているのを見て、マドリッド子がどう発音するのかということ、それは人により、年齢やカタルーニャに対する政治的シンパシーによって差があるそうです。

Q-8. yo は「ジョ」と発音しますか。「ヨ」と発音しますか?

A-8. どちらの発音もあります。(とくに文頭では「ジョ」となることが多い)。

6 . 二重子音

7 . 音節の切り方

8 . アクセントの位置

Q-9. 「同じ綴りの単語があるものは単音節でもアクセント記号を付ける」という原則ですが、異なる意味なのに同じ綴りの単語が 3 つ以上あるケースはないのですか? ありそうな気がするのですが...

A-9. あります。たとえば人称代名詞「君を, 君に」の te, 「お茶」の té はアクセント符号で区別しているわけですが, 「T (文字の名前)」もアクセント符号なしの te ですから厳密に言えば区別されていないことになります。「同じ綴りの単語があるものは単音節でもアクセント記号を付ける」という原則にも例外はあるわけです。

Q-10. 音節を切り, アクセント記号を付ける, という原則に従うと, 「ba-úl」や「cant-á-is」, 「es-tá-is」は元々アクセント記号を付けなくても後ろから 2 番目の音節にアクセントが来る気がするのですが, どうしてアクセント記号を付けるのですか?

A-10. baúl は u の上にアクセントが来ます。記号を取ってしまうと, a が強勢になってしまうので困ります。また cantáis や estáis の ai は二重母音なので 1 つの母音と考えます(質問者の音節の切り方は間違っています)。すると s で終わる語で最後の音節にアクセントを持つてくるためには, やはりアクセント記号が必要になります。

教科書 Dímelos の動詞活用表に示されている「cant-á-is」や「viv-e-s」などのハイフンは,

音節の区切りではありません（音節で区切ると「can-táis」,「vi-ves」となります）。これは言語学でいう「形態素（いちばん小さな意味のまとまり）」の区切りなのです（「á」が時制語尾,「is」が人称語尾）。「形態素」というのは音節ではないところでも切れるので、たとえば日本語の「飲みませんでした」は「nom-imas-en-des-ita」と区切ります。

Q-11. Washinton は wa-shing-ton という原則に従うと、アクセントは i ではありませんか。でもパソコンの音声では a にアクセントがあるように聞こえるのですが、どちらでしょうか。

A-11. 確かにアクセントは最初の音節の a にあります。この地名はスペイン語ではないので、アクセントの規則よりも、元の言語（英語）のアクセントの位置を尊重します。なお、w は外来語に使われます。

Q-12. スペイン語では単語にアクセントをつけますが、例えば Ibamos la parque. のようにアクセントの付く語が文頭にきたときはアクセントはどうすればよいのでしょうか？

A-12. アクセント符号がついた母音字が文頭にきた場合、アクセント符号はつけるのが普通ですが、印刷環境によっては省略することもできます。私が使っている Word では大文字にもアクセント符号をつけられるので、私はつけることにしています。ついでに付け加えておきますと、ご質問のなかの Ibamos la parque. は正しくは Ibamos al parque. です。このときの a は目的地を表します。parque は男性名詞です。

9. 綴り字の規則

Q-13. スペイン語の辞書に載っているような単語で -c で終わる名詞か形容詞はありますか。複数形にするときに -cs になるのか、-ques になるのかということなのですが。

A-13. 形容詞はありません。名詞はあります。coñac, frac, bistec, zinc, bloc など。基本的にはこういう外来語の複数形は -cs なんですが、しかし場合によっては -ques と開くときもあるようです。次が参考になると思います。

<http://lecture.ecc.u-tokyo.ac.jp/~cueda/kenkyu/gyakubiki/index.php>

10. 数詞 . 1 から 10 まで

Q-14. 第三外国語としてスペイン語の授業を受けています。第二外国語はドイツ語ですが、11 ~ 19 の数字を言うときに、英語、ドイツ語では 11 と 12 だけが違った形をしていて、13 ~ 19 は「-teen」あるいは「-zehnte」という決まった形です。（20以降の言い方とはまた少し違いますが。）

一方、スペイン語では 11 ~ 19 の数字を言う場合、11 ~ 15 だけが別な形をしていますね。12 までというのは昔の 12 進法の名残とか、時間を言うときの便利さなどという理由が考えられますが、スペイン語においては何か歴史的・文化的な意味があるのでしょうか？少し気になったので、教えていただけるとありがたいです。

A-14. ラテン語では 11 から 17 まですべて「1の位の数字 + 10 (decim)」という形でした(18 と 19 はそれぞれは「20-2」,「20-1」という言い方をしました)。decim は 10 (Lat. decem > Sp. diez)と同じです。たとえば、11 ならば「1 + 10」(un + decim > undecim)という言い方になります。スペイン語の時代になると、11, 12, 13, 14, 15 は undecim > once, duodecim > doce, ... のように ce で終わる語となって、古いラテン語の形をそれなりに保ちました。現代スペイン語の 11-15 の...ce という語尾は diez の z と起源を共通にしているわけです。一方、16 と 17 はそれぞれ「10 + 6」(diez y seis > dieciséis),「10 + 7」(diez y siete > diecisiete)という一般の形

に合流しました(たとえば 36 は treinta y seis)。前者(11-15)のように特殊な形が残るのは頻度の高い語の場合です。小さな数字のほうが大きな数字より多く使われていたようです。

練習

Q-1. どうして「東京」は Tokyo ではなくて、Tokio と書くのですか？ 他にもこのような例はありますか？

A-1. スペイン語に子音 + y の連続がないので、Tokyo の yo の部分は二重母音になり、Tokio と書かれます。京都も Kioto と書かれます。ただし、最近スペインで発行された地図帳などを見ると、Tokyo、Kyoto という表記も使われています。

Q-2. 「1月」～「12月」の単語の由来は英語を同じでしょうか？

A-2. 同じです。形もよく似ています。一見すると別もののように見える January と enero も実は同起源です。

Q-3. lunes など月から金までの曜日には語末に s がつきますが、sábado と domingo にはつかないのは何故でしょうか。

A-3-1. スペイン語の単語はイタリア語、フランス語に似ていますが、平日の曜日はイタリア語、フランス語では単数、スペイン語では複数形で表現されます。(グラナドス)

A-3-2. 私もこれは変だなと思ったことがあります。グラナドス先生がおっしゃるとおり、それぞれの言語に特有のルールがあるようです。スペイン語の場合について見ると、lunes, martes, miércoles, jueves, viernes... そして、その後は、...あれ？ sábado, domingo で es がない！目の前にあるカレンダーを見ると英語では、ぜんぶ ...day となっていて、規則的です。それは、もともと「...の日」という意味でした。Sunday「太陽の日」、Monday「月の日」、...といった具合です。スペイン語でも、たとえば、martes はラテン語の DIES MARTIS「軍神マルスの日」、jueves は DIES JOVIS「ジュピターの日」というように神々の名前をつけていました。「所有」を示す語尾(属格と言います)の..IS がスペイン語で es になったのです。それから、lunes はラテン語の DIES LUNAE にあたるので、もともと属格の形が..IS ではありませんでした。それでも、スペイン語はそれを他の日と同調させて lunes という形にしてみました。このような作用を言語学では「類推」(analogy)と言います。それでは、なぜ、sábado と domingo も類推作用によって...es をつけなかったのでしょうか。domingo はラテン語の DIES DOMINICUS「主の日」に由来しますが、これはもともと名詞の属格ではなく、形容詞(DOMINICUS、「主の」という意味)であったためだと思います。sábado はヘブライ語の SABBATH に由来し、これだけで「休息の日」という意味の名詞でした。このように、「土曜日」と「日曜日」に...es がないのは、ラテン語で名詞の属格でなかったことが原因だと思います。そして、この2日は1週間の中でもとても大切な日だったので他の日に同調させるようなことはなく、独自の形を保ったのだと思います。言語の歴史を考察するときは、機能的・形式的な作用と文化的な背景の、どちらも見る必要があります。

Q-4. 英語と違い、月や曜日の頭文字が大文字でないのには何か理由があるのでしょうか？

A-4. 頭文字の大文字・小文字の区別は学校教育などで教えられる規範に従っています。この規範を定めるのは、「スペイン王立アカデミー」Real Academia Española という機関です。そこで発行された「スペイン語の正字法」Ortografía de la lengua española という本によれば、曜日、月、季節の頭文字は小文字にする、と規定されています。このアカデミーはかなり求心

力があり、全世界のスペイン語の規範を定めているようです。(先ほど書いた *Ortografía de la lengua española* という書名ですが、スペイン語では、このように、書名の最初の語は大文字にして、次から小文字にする、などということも決まっています。)このように、大文字・小文字の問題は言語ごと、時代ごとの規範や習慣に従っているもので、それぞれ異なることがあります。ドイツ語ではすべての名詞を大文字で書きますし、また、逆に、同じスペイン語でも古い文献(中世)を見ると、固有名詞でさえ小文字で書かれていることがあったりして、やっかいです。それでは、なぜ、アカデミーは上のように決めたのでしょうか。これは、私の推測ですが、アカデミーは絶対的な権力で一方的に規範を押しつけるのではなく、教養のある人の書き方を尊重する、という姿勢があるので、規範を定めたときには、そのように書く人が多かったからではないかと思います。19世紀には、*lunes* と *Lunes* という2つの書き方がありましたが、大規模な資料で *lunes* だけ調べてみると、圧倒的多数が小文字で書かれていました。20世紀になると、ほとんどすべて小文字になっています。それでは、なぜ、教養のある人は小文字で書くことを好んだのでしょうか。これも推測ですが、スペイン語では大文字は基本的に人名・地名などの固有名詞に限られているので、曜日や月の名は人名・地名などの固有名詞とは区別されたのだと思います(曜日と月は固有名詞だ、という見解もありますが、ここでは、人名・地名などの一般の固有名詞と区別して考えておきましょう)。そこで、先述の「スペイン語の正字法」でも、曜日名と月名が季節名(これは固有名詞でない!)と並べて同様に扱われている理由がわかります。(英語でも、さすがに、季節名は文頭でなければ小文字ですね。)

その他

Q-1. スペイン語の表記に特有の、「！」や「？」を逆さまにしたあの記号に名前がありますか？

A-1. ?を逆さまにしたものと?の両方セットで *signo de interrogación*、また!を逆さまにしたものと!のセットで *signo de exclamación* といいます。

¿ や ¡だけを取り出して言うときの表現はとくに決まっていますが、¿ は *signo de apertura de interrogación*、¡は *signo de apertura de exclamación* がよく使われます。*apertura* の代わりに *principio* も使われます。*signo invertido de interrogación [exclamación]* も見たことがあります。*apertura* の代わりに *cierre* を使うと ? や ! を指します。

Q-2. ひとつ気になっているのは、スペイン語学習に使われているナレーターの方の発音と速さです。本当にあのような発音と速さなのですか？

A-2. 個人差もありますがあのスピードはスペイン語の自然の速さです。どの言語でも慣れるまでは速く聞こえるものです。私(上田)も初めて勉強したときは絶望感さえ味わいました。今でもわからないことがあります、いろいろなスペイン語を聞く機会を増やしていきたいと思います。

Q-3. どこで大文字を使うのがよく分かりません。

A-3. 文を新たにはじめるとき、文頭の文字はかならず大文字にし、また固有名詞の語頭も大文字になります。こういう点は英語と同じなのですが、ところがこれに反して、地名形容詞や言語の名前の頭はスペイン語では小文字でつづります。*Japón* の語頭は大文字ですが、*los japoneses* の語頭は小文字になるわけです。このため英語と比べて、スペイン語は小文字を使う頻度の高い言語になっています。

Q-4. 「山田一郎」は Yamada Ichiro と書きますか？ それとも Ichiro Yamada ですか？

A-4. 一般に名前，姓の順になります。この例では Ichiro Yamada です。

Q-5. ポルトガル語とスペイン語は似ているということですが，バスク語やカタルーニャ語，ガリシア語はスペイン語と似ていますか？

A-5. カタルーニャ語とガリシア語はロマンス系言語なので，スペイン語とよく似ています。バスク語は言語の系統が違い，まったく異なります。

Q-6. スペイン語でつまる音「っ」はどのように表記すればいいのでしょうか？

A-6. スペイン語はイタリア語のような重子音がないので，基本的に「つまる音」はありません。ただし，日本人の耳にはたとえば，usted が「ウステッド」のように聞こえることがあります。また，たとえば (Gustavo Adolfo) Bécquer のような固有名詞では子音が重なることがあり，これは「ベッケル」のように聞こえます。

Q-7. encantado(a)や bienvenido(a)は，言葉を発す本人の性によって決まるのでしょうか？それとも相手の性によるのでしょうか？

A-7. 一般に形容詞の性・数は，その形容詞がかかっている（説明している）人や物の性・数に一致します。encantado(a)や bienvenido(a)という形容詞が，誰にかかっているのかを突き止めてみましょう。まず，「はじめまして」を意味する Encantado(a)は，Yo estoy encantado(a).（私は〔あなたに会って〕魅了されています）の省略形と考えられます。ここでの encantado(a)は主語の Yo（話し手）にかかっています（説明しています）ので，その性・数に一致します。つぎに，「ようこそ」を意味する Bienvenido(a)は，Tú eres bienvenido(a).（君は歓迎されています）の省略形と考えられます。すると，この bienvenido(a)は，主語の Tú（聞き手）を説明していますので，その性・数に一致します。

Q-8. 英語の Spanish のスペイン語として español のほかに castellano という単語もあると耳にし，和西辞典で調べてもなかったのですが，英西辞典では確かにありました。この単語はカスティーリャ王国に由来すると思うのですが，たとえば日本だと日本語を「ヤマト語」という言葉はないのに，この単語はなぜいまだに残っているのですか？また，この二つの違いはなにかありますか？

A-8. スペイン語は元来，中世期のイベリア半島中央部に成立したカスティーリャ王国の言語でした。この王国がレコンキスタ（国土回復戦争）を主導して強大化したため，その言語がイベリア半島の広い地域で話されるようになり，今日に及んでいるのです。しかしスペインでは，このカスティーリャ語（castellano）以外にも，カタルーニャ語，バスク語，ガリシア語などが使われています。スペイン語（español）とは本来，「スペインで話されている言語」のことですから，本当を言えば，カタルーニャ語，バスク語，ガリシア語だって立派な「スペイン語」なのです。スペインを代表する言語ということで，カスティーリャ語がスペイン語という呼称を独占しているのが現状ですが，実はこの呼称は他の言語を無視した不正確な通称でしかありません。そこで言語学などで正確を期す場合には，castellano という呼び方の方が好まれます。

Q-9. スペイン語を学んだ後だとラテン系のほかの言語（フランス語，イタリア語，ポルトガル語など）を学びやすくなったりしますか？

A-9. 文法も語彙も非常によく似ていますから，非常に学びやすくなります。

Q-10. スペイン語そのものとは関係ないのですが、現スペインでは王が存在するにも関わらず、なぜ国名に王国とつかないのでしょうか。（デンマーク王国、ノルウェー王国など他のヨーロッパ諸国では王国とついています。）

A-10. スペインの正式名称は、「スペイン王国」（Reino de España）です。